

福島大学資料研究所活動報告書

所長 黒沢 高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

○研究活動内容

大学貴重資料の整理・活用

経済経営学類と協力して整理を行ってきた福島高等商業学校資料について、特に学術的価値が高いと思われる資料を対象に、デジタルカメラによる撮影を行うとともに、記述内容のデータベース化を進めた。

昨年度に続き、戦国大名伊達氏をはじめとする中世福島・東北史の研究で著名な小林清治名誉教授の旧蔵資料の再整理を継続した（図1）。福島大学貴重資料保管室植物標本室FKSEでは2022年4月1日～2023年3月31日の間に、のべ2名の学外の研究者の訪問利用があった。また、研究者から5件、自治体から1件の標本データベースのデータ照会に対応した。国内博物館への研究目的の標本貸し出し1件に対応した。国内博物館との標本交換により1件、県内高等学校から標本寄贈1件の受入を行った。福島県による委託業務令和4年度外来種リスト作成に関わり、標本データベースのデータを



図1 小林清治名誉教授資料の再整理の様子。

用いて「ふくしまブルーリスト2022年版」(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566487.pdf>)を作成した。

主催展示事業

「福島師範学校卒業生・大浦尋常高等小学校新任田口亮男先生の記録した120年前の福島県の海岸植物展」（主催：福島大学資料研究所）を2022年12月16日（月）～2023年1月6日（金）に福島大学附属図書館1階ロビーで開催した（図2）。これは福島師範学校卒業生で県内の学校で校長を務めた田口亮男（たぐちすけお）氏の若い頃の標本や手稿など、当時の福島県の海岸植物に関する資料を紹介することを目的に



図2 福島師範学校卒業生・大浦尋常高等小学校新任田口亮男先生の記録した120年前の福島県の海岸植物展の様子。

行った展示である。田口亮男採集のヒメキンポウゲの標本や、第 5 圖版（ハマナス、磐城四倉）が掲載されている三好學『普通植物生態學』、田口による手稿などが展示された。新型コロナウイルス感染防止のために、プレスリリースなどは行わなかったが、学内から多くの人が訪れ、そのうち記帳をした人は主催関係者（研究所メンバーとその研究室学生・ゼミ生）10 名、主催関係者以外の学内から 31 名、学外から 5 名の合計 46 名であった。

「倉科光子植物画展 ツナミプランツ—津波浸水域の植物たち— in 福島大学」（主催：福島大学資料研究所）を 2023 年 2 月 6 日（月）～2 月 20 日（月）に福島大学附属図書館 1 階ロビーで開催した（図 3）。これは海外でも高い評価を得た、倉科光子氏によるツナミプランツと題した津波浸水域の植物画のジークレーを展示し、描いた植物の生育場所で採集した福島大学所蔵ミズアオイ標本など、絵にまつわる資料を紹介することを目的に行った展示である。ツナミプランツシリーズ植物画ジークレーや、ミズアオイ、ツツイトモなど福島大学資料研究所所蔵資料などが展示された。この展示も新型コロナウイルス感染防止のために、プレスリリースなどは行わなかったが、学内から多くの人が訪れ、そのうち記帳をした人は主催関係者（研究所メンバーとその研究室学生・ゼミ生）5 名、主催関係者以外の学内から 31 名、学外から 4 名の合計 40 名であった。

情報発信

HP (http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html)



図 3 倉科光子植物画展 ツナミプランツ—津波浸水域の植物たち— in 福島大学の様子。

html) で本研究所および研究所研究メンバーの活動を紹介するとともに、県内を中心とする貴重資料や関連行事のニュース9件などを「お知らせ」欄などに掲載した。附属図書館1階ロビーの本研究所の掲示版で、展示の案内や『福島大学貴重資料集』などの配布を行った。

植物標本室標本に関して、国際的な生物多様性データベースであるGBIF (Global Biodiversity Information Facility, <https://www.gbif.org/>) と全国的な標本データベースであるS-Net (サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>) にそれぞれ4,000件のデータを登録し、公開された。

(情報発信前年度追加)

植物標本室に関して国際的な植物標本室目録である Index Herbariorum (事務局: Steere Herbarium, New York Botanical Garden) に登録申請し、2021 年 6 月に登録された (<https://sweetgum.nybg.org/science/ih/>, 2023年9月8日確認)。登録に際し、国際的な植物標本室略号FKSEが付与された。

後援事業

2023年1月31日～2月6日に福島大学附属図書館1階ロビーで開催された「知能ロボットコンテスト展 ～福島大学の挑戦者(チャレンジャー)たち～」(主催: 令和4年度共生システム理工学類博物館実習履修者の会) を後援した。

2023年2月8日～2月14日に福島大学附属図書館1階ロビーで開催された「ミツバチと養蜂の世界」展(主催: 令和4年度共生システム理工学類博物館実習履修者の会) を後援した。

大学貴重資料を活用した研究業績一覧

資料研究所研究メンバーが管理する貴重資料を活用して行われ、2022年4月1日～2023年3月31日の間に出版され、資料が出版物内に引用または明記された研究業績の一覧を示す(それ以前に発表されて、報告書に掲載されていない業績も含む)。下線は研究メンバーを示し、*は研究メンバーを含まない研究業績を示す。

Shirai, M., Takano, A., Kurosawa, T., Inoue, M., Tagane, S., Tanimoto, T., Koganeyama, T., Sato, H., Terasawa, T., Horie, T., Mandai, I. & Akihiro, T. 2022. Development of a system for the automated

- identification of herbarium specimens with high accuracy. *Scientific Reports* 12: 8066. <https://doi.org/10.1038/s41598-022-11450-y>
- *Han, L. X., Jin, Y., Zhang, J. L., Li, X. L., Chung, M. Y., Herrando-Moraira, S., Kawahara, T., Yukawa, T., Chung, S.-W., Chung, J. M., Kim, Y.-D., López-Pujol, J., Chung, M. G. & Tian, H. Z. 2022. Phylogeography of the endangered orchids *Cypripedium japonicum* and *Cypripedium formosanum* in East Asia: Deep divergence at infra- and interspecific levels. *Taxon* 71: 733–757. 10.1002/tax.12710
- 黒沢高秀. 2022. 福島県裏磐梯高原植物誌(1)植物地理. 福島大学地域創造 34(1): 77–86.
- 渡辺智美・首藤光太郎・薄葉満・高橋真希・黒沢高秀. 2022. 磐梯朝日国立公園裏磐梯松原湖における 2004～2016 年の水生維管束植物相. 福島大学地域創造 34(1): 87–98.
- 櫻井信夫・黒沢高秀. 2022. 東日本大震災前の帰還困難区域を含む市町村または地区 (南相馬市小高区, 飯舘村, 葛尾村, 浪江町, 双葉町, 大熊町, 富岡町)および福島県海岸部における植物や景観等の状況(1). 福島大学地域創造 34(1): 99–107.
- *Tagane, S., Fujii, S., Hirota, S. K., Naiki, A. & Yahara, T. 2022. *Hydrangea marunoi* (Hydrangeaceae), a new species from Osumi Peninsula, southern Japan. *PhytoKeys* 211: 33–44. 10.3897/phytokeys.211.89452
- 徳竹剛. 2022. 福島高等商業学校文書にみる学生像—『自己要録』に記された愛読雑誌を中心に—. 阪本尚文(編), 知の梁山泊—草創期福島大学経済学部の研究—, 58–68. 八朔社, 東京.
- *Hung, L.-Y. & Wang, J.-C. 2022. A revision of *Rosa transmorrisonensis* Hayata and allied species in Taiwan. *Taiwania* 67: 484–496. 0.6165/tai.2022.67.484
- 中川博之・首藤光太郎・佐藤 謙・黒沢高秀. 2022. 大雪山系富良野岳で確認されたツンドラスズメノヒユ (イグサ科). 植物研究雑誌 97: 329–335.
- Mtow, S. & T. Tstutsumi. 2022. Body pigmentation during embryogenesis first found in stoneflies: a case of *Megaperlodes niger* Yokoyama, Isobe & Yamamoto, 1990 (Insecta: Plecoptera, Perlodidae). *Fragmenta Entomologica* 54: 273–278.
- 櫻井信夫・黒沢高秀. 2023. 東日本大震災前の帰還困難区域を含む市町村または地区 (南相馬市小高区, 飯舘村, 葛尾村, 浪江町, 双葉町, 大熊町, 富岡町)および福島県海岸部における植物や景観等の状況(2). 福島大学地域創造 34(2): 121–133.
- 高橋俊哉・山下由美・山ノ内崇志・黒沢高秀. 2023. 福島県昭和村矢の原湿原北湿原の植物相と植生. 福島大学地域創造 34(2): 135–154.
- 相馬航輔・藤本恵美・山ノ内崇志・黒沢高秀. 2023. 福島県を北限・太平洋側北限・南限とする維管束植物の文献情報に基づく現状. 福島大学地域創造 34(2): 155–174.
- *Suetsugu, K. & Hsu, T. C. 2023. Resurrection and lectotypification of *Taeniophyllum aphyllum* (Orchidaceae). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 74: 39–45. 10.18942/apg.202302
- 黒沢高秀. 2023. 宮城県仙台市宮城野区岡田で防潮堤セットバックが行われた海岸の維管束植物相. 応用生態工学 25: 179–188.
- 黒沢高秀. 2023. 沼山峠休憩所旧トイレ前の斜面の帰化植物および移入と扱われる在来植物(駆除 2 年目). 尾瀬の保護と復元 (35): 17–19.
- (以下は 2022 年 3 月 31 日以前の追加)
- *会津生物同好会. 2021. 福島県会津地方の帰化植物. 会津生物同好会誌 (59): 10–82.
- 塘忠顕・鈴木花苗・大友真夏・林宏至朗・大平創. 2022. 尾瀬ヶ原と尾瀬沼及びその周辺域から記録された水生昆虫. 低温科学 80: 357–378. 10.14943/lowtemsci.80.357
- 大学貴重資料に関する記事や報道
資料研究所の活動や研究メンバーが管理する貴重資料に関して, 2022年4月1日～2023年3月31日の間に発表された解説記事や報道の一覧を示す。
- 「ランに寄生するハエ・・・実は在来種? 100 年前の標本に「さなぎ」の痕跡 DNA 解析」(朝日新聞, 2022 年 5 月 18 日夕刊版)
- 「ラン寄生のハエ 在来種だった? 福大・山下客員准教授が解析 100 年前の標本調べさなぎの殻取り出す」(朝日新聞福島面, 2022 年 6 月 22 日版)
- 「AI 使い植物名を判定 黒沢福大教授ら研究グループ システム開発, 学術誌公開」(福島民友, 2022 年 6 月 25 日版)
- 「アイズヒメアザミ 児童ら標本作製 福島大に寄贈 天栄に自生, 絶滅危惧種」(福島民友新

聞, 2022年11月22日版)

「絶滅危惧種アザミ標本贈る 天栄・湯本の研究
所と児童福大に 森林学習で調査, 作製」(福
島民報新聞, 2022年11月24日版)

「特集田口亮男の植物研究 驚くような貴重な標
本が見つかる 植物の分類を研究 百二十年
前に田口が採集した福島県の海岸植物標本
を展示 植林前の状態が明らかになる 山麓
はチシマザサの草原だった わが地方の植物
名の方言 迷信のはなし」(日々の新聞, 2023
年1月1日版)

「裏磐梯や猪苗代の自然環境研究発表 福島大教
授ら」(福島民報新聞, 2023年3月2日版)